

令和3年度 第2回桐生市子ども・子育て会議の開催結果について（報告）

【日 時】 令和4年2月2日（水）～2月14日（月）

【開催方法】 書面会議

【出席者】 委員17名の内、17名が出席（意見書を提出）
※過半数以上の委員が出席しているため、会議は成立

【議 事】

(1) 公立特定教育・保育施設の配置見直し（案）について
〈意見・質問等について〉

意見・質問等	回答	担当課
<p>特定教育・保育施設の見直しという事ですが、公立の保育園は今回の見直しにより全て閉園になってしまいます。</p> <p>私立保育園に対し、認定こども園化を促す等の措置はしないのですか？</p> <p>議事(2)もそうですが、地域とのニーズの調整を図る以上、相対的に話が進む事を願っています。</p>	<p>配置見直し後も公立の相生・黒保根保育園は継続する予定であり、教育認定・保育認定ともに必要な定員を確保できるよう対応したいと考えております。</p> <p>市内の私立保育施設は、認定こども園化が進んでいる状況ですが、認定こども園への移行については、保育園の運営法人において判断するものであると認識しております。</p>	子育て支援課
<p>・統合数について</p> <p>地理的遠方の黒保根地区（22区）は別として、1～18区の就学前児童数と見直し後の施設数は妥当性があるのでしょうか？今後の出生見込み等も考慮し、適切な量としてほしい。</p> <p>・施設の耐震について</p> <p>見直し後の施設について、耐震化がされているのでしょうか。されてない施設が含まれている場合の計画はどうなっていますか？</p>	<p>・保育の確保量については、公立・私立の分けなく市全体で定めることとなっており、私立の保育園及び認定こども園の状況を見ながら公立施設の定員を決定する必要があると考えておりますので、見直し後の公立施設の数についても、今後の状況等を考慮しながら検討いたします。</p> <p>・見直し後の施設については、5施設中4施設は耐震化がされており、1施設は一部耐震化されておりません。見直し案の決定後、耐震化計画等の整備について検討いたします。</p>	子育て支援課
<p>かつて、各小学校区に1園ずつ公立の幼稚園があったことを考えると、「見直し後幼稚園2園」という数字に、少子化の波がいかに大波であるかを思い知らされます。保育園、認定こども園と合わせても、ゆく</p>	<p>平成18年に市立幼稚園における幼児教育の在り方を議論した際の答申では、市内幼稚園を4園（西・境野・広沢・相生幼稚園）に統合することが適当とありましたが、4園の統合は性急すぎるとの意見があ</p>	学校教育課

<p>ゆくは公立のものが5園にまで減り、その5園で“保育需要が低く安定的な運営が難しい地域”や“配慮が必要な幼児の受け入れや支援”を担っていかなければいけないというのは、かなり厳しい現状かと思いません。幼稚園教諭や保育士に大きな負担がかからないよう、十分な環境づくり、サポートをお願いしたいと思います。</p> <p>現在、公立幼稚園の中で、一番園児数の多い桜木幼稚園が耐震化未実施であるのは、どういった事情からでしょうか。驚きです。R7年3月に閉園予定の東幼稚園と共に、あと3年間、改修のないままでしょうか。老朽化の進んでいるという木造の広沢南部保育園の残りの3年間も心配です。</p>	<p>り、東・川内南・桜木幼稚園の3園を加えて7園に統合いたしました。そのような経緯から、まずは答申の4園を優先して施設整備を実施し、他の3園については大規模な改修を実施いたしませんでした。</p> <p>なお、現時点では大規模な改修の予定はありませんが、各園では、毎日の安全点検並びに年3回以上の避難訓練を実施し、有事に備えております。</p>	
--	---	--

その他意見等
<p>将来を見据え、安定的な施設運営のため、非常に合理的な見直しであると思えました。子どもにとっても、ある程度の規模の人数の中で集団生活をおくることが望ましいと感じます。ですが、大きな影響があるので広く市民に情報開示を早期にお願い致します。</p>
<p>今までと同様な画一的で、どの園も同じという公立施設では、名前や場所、建物が変わるだけで終わってしまう。私立は、その園独自の特色を出しやすく、見習う面もあるのではないかと。</p> <p>「幼児教育をリードする役割を担う。」という立場でなく、公私共に互いに、足りない部分を補い合うような特性を持って、機能した方が良いと思う。</p> <p>子どもに対する考え方や捉え方が日々変化している中で何十年も前の建物（環境）では、子どもに追いついていないと感じる。</p> <p>公立であっても各園で利用者にわかりやすい特色を持つべき。</p>
<p>子どもを公立幼稚園に通わせており、公立幼稚園が培ってきた教育力の高さを日々実感しているところです。これは一朝一夕にできることではなく、長い時間の積み重ねの中で育まれたものと思います。一方で子どもの数の減少も身近な問題であり、子どもの通う園は閉園が決まりました。そのような中、私自身は今回の見直しについて、公立幼稚園での教育の機会を今後も失わないようにするため、またその質を維持していくための1つの方策であるとの理解しております。ただ、これは私個人の考えであり、今回の見直しにあたり、様々な想いをもつ保護者の方達がいらっしゃいます。すでにしていただいていることとは思いますが、公立幼稚園での教育を必要とし、あるいは望んでいる保護者の方達の声を今後も丁寧に聞きながら進めていただければと思います。また、残る園での教育の継続と充実を切に願います。なお、公立幼稚園が2園のみとなることで、送迎等、通わせるハードルが高くなるものと思われる。これまで以上に公立幼稚園の特色が十分伝わるよう、広報、周知の活動も必要になってくるのではないかと考えています。</p>

待機児童が出ないように配置見直しを進めてください。

少子化が急速に進む中、更に追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染症の拡大が瞬く間に拡がり、この2年間で出生率にも影響があるようです。

そのような状況をふまえ、又、その他、施設の老朽化等も含め、資料に示された計画変更（見直し）は止むを得ないと考えます。が、資料1にも示されている、歴史ある公立保育園・幼稚園の統合・廃園の計画が一気に進められるのは非常に残念であり、サービスの後退につながらないのか不安はあります。

年々、各園とも発達障害が心配される子が増えています。現場の保育士は、日々の対応に苦慮しています。受け入れや支援、きめ細かな配慮の対応も考慮して頂きたいと思います。

今までも、ましてやこれからも、桐生市は子育てするにはとても良い環境です。どうか「過疎地域」と諦めないで、若いご夫婦が安心して子どもを産み、育てやすい町と実感できるよう、行政から解りやすい政策を発信できたらと思います。

少子化が進む中で、計画の見直し・変更は理解いたしました。しかし、公立幼稚園・保育園のみならず、私立幼稚園・保育園（こども園含む）も、閉園・統合・規模の縮小などが進められて行くと予想されます。そうなりますと、施設だけでなく幼児がかかわる仲間や大人たちなど日々の園生活の中で、これまであたりまえに体験できていた事柄が十分できなくなってしまうことが懸念されます。

公立幼稚園・保育園が令和7年までに大きく変化するなかで、資料に明記されています桐生市幼児教育センター的役割の機能充実につきましては大きな期待をしています。

これまでの桐生市の質の高い幼児教育を継続していただけることを心より願っています。

(2) 第2期桐生市子ども・子育て支援事業計画（令和2年度から令和6年度までの5か年計画） の変更について

〈意見・質問等について〉

意見・質問等	回答	担当課
確保方策に、地域とのニーズの調整を図るとあるが、どのようにそのニーズを把握し、対応していくのか。子育て世代のニーズとしては、共働きが多く、早朝や夜まで労働時間帯も様々であると思う。それをカバーできる開園時間や、土曜保育などが求められているのではないか。朝から晩まで、子どもを預ける事が子ども自身にとって良い事ではないが、長時間、子どもを預ける必要のない社会が「子育て世帯を支える環境」だと思う。	地域とのニーズ調整については、具体的には、各地域の就学前児童数や年齢別の入園申込状況等を見ながら、教育・保育の必要量を確保できるよう対応したいと考えております。 なお、5年を1期とする本計画の策定時には、確保を図るべき教育・保育・子育て支援事業の「量の見込み」を算出するため、子育て世帯を対象に、事業に関する現在の利用状況や今後の利用希望を把握するアンケート調査（ニーズ調査）を行っておりますが、「確保方策」についても本調査結果を踏まえながら、また必要に応じて、子ども・子育て会議のご意見もいただきながら設定をしているところです。	子育て支援課